



割と放し飼いされているようです。シマウマもいました。

STUDY

興味を持った授業に関しては自分が登録されていなくとも、しれっと参加しています。

International office に相談に行くよりも、授業の会話の中で「実は履修していないんだけど」とニコニコしているくらいが丁度いいようです。

Master の授業が開講されるのは 19~23 時で、これは現地の社会人が働きながら学べるよう組まれています。生徒の半分くらいが 30 歳前後で、講師の方々も比較的金銭を基軸に話を展開することが多い印象を受けます。留学生も非常に少なく、授業はポルトガル語と英語を織り交ぜて展開されます。留学生の友人と現地の友人とではかなりの温度差を感じますが、とはいえ壁があるわけではなく皆本当に親切にしてくれて、私も時たまハウスパーティに一人混じっています。

最初は「地に足の着いた彼らと比べ、自分の人生は迷子だなあ」と落ち込んだりもしたのですが、仲良くなってお互いを知るうちに皆それぞれ色んな経緯を経て集まっていることがわかり、焦らず卑下せずやっついこうと思うようになりました。

話が逸れましたが、価値観の違いに驚かされるのは生活面だけではなく、当然授業中にもかなり困惑することがあります。先日のプロダクトの授業で”ターゲットユーザー”を4つの選択肢から選んでと言われた時のことです。その選択肢の中には”animal”というものがありました。

てっきり私は生態系保全を掲げてプロダクト提案をしろということだろうかと、どの動物に人間が肩入れするかというエゴとどう向き合えばいいのか分からずに悶々としていたのですが、結局のところ”animal”はそれらを指してはいませんでした。過去の事例の紹介では飼育している馬を対象としたり、ペットの犬を対象としたり、生徒からの質問ではハムスターや観賞用の魚の話が出てきたり。人間の所有物としての動物が対象でした。うっかり”animal”を選んでしまった私ですが、そもそもペットという概念が苦手なので（動物は大好きですが）、今後かなり苦勞することになりそうです。



少し南へいくと断崖が顕著に。波の返しが強くなかなか浜辺へ戻れない場所もあります。非常に怖かった。

LIFE

リスボンで暮らし始めてから早くも1ヶ月弱が経ちました。何から話せばいいのかわかりませんが、かなり馴染んだように思います。特に用のない日はビーチでのんびりと、泳ぐか眠るか酒を煽るような、時間的にかなりゆとりのある休日の過ごし方が一般的なようです。日本にいた頃は外出というと、「あれを見に行こう、これを食べに行こう」という風に目的を定め、ある種の達成感を求めて出かけているように感じる部分がありましたが、こちらではほとんどの場合昼寝をしに行くというか、陽が落ちるまでの間海辺にみんなで引っ越してきているような感覚に近いかと思います。ハウスメイトにも大学の友人にも恵まれ、自分も非常にオープンになったような気がします。パリピなハウスメイト達と、のんびり過ごすのが好きな大学の同じく留学生の友人達と、いつも同じ話題ばかりの現地の大学院生と...それぞれ全く違う時間の流れ方をするコミュニティですが、非常に居心地がいです。

食事面に関しては日本にいた頃とあまり変わりません。というのも日本食を作るのに十分過ぎるだけの

調味料がさほど遠くないアジアスーパーで手に入ってしまう、自炊の習慣をそのままに好きなものを作って食べています。食べ慣れたものをいつでも作れる反面新しいレシピの吸収がないのでなんとも複雑な気持ちではあるのですが、ハウスメイト達も日本食が大好きなのでまあいいかと思っています。こちらでは料理ができると非常に尊敬されるようです。

交通の便が非常にいいのでアパートを探す際は大学からの距離よりも、バスと地下鉄の路線を考慮した方がいいかなと思います。23歳以下の学生は月30€でリスボン近郊を含めたバス・電車・地下鉄・フェリーが乗り放題なので、自然と足が外へ伸びていきます。

授業が始まり生活が一変し、現在はかなり忙しくなりました。幸い恐怖心は薄い方なので、引き続き色々飛び込んでみようと思います。